

(別紙)

成果の説明書

(氏名) 加藤 健太	(学部) 経済
<p>1 重要事項</p> <p>(1) 研究</p> <p>(a) 総合商社史研究</p> <p>2011年度から3年間、「取引関係から見た総合商社の機能に関する歴史分析—三菱商事を中心に—」というテーマで、学術研究助成基金助成金（基盤研究（C））の助成を受けており、本年度はその最終年度に当たる。具体的な成果として、下記の業績を発表した。</p> <p>①論文「三菱商事と安治川鉄工所—総合商社の経営介入行為に関する1つの試論—」『社会経済史学』第79巻第4号、2014年2月刊行</p> <p>②論文「三菱商事の鮭鱒缶詰取引とロンドン支店—企業間関係と“ハブ拠点”の機能—」『三菱史料館論集』第15号、2014年3月刊行予定</p> <p>③書評「[上山和雄・吉川容編著 [2013] 『戦前期北米の日本商社—在米接收史料による研究—』 日本経済評論社』『社会経済史学』第79巻第4号、2014年2月刊行</p> <p>【論文の概要】</p> <p>①の論文では、戦間期の三菱商事（商事）と安治川鉄工所（安治川）の事例を対象にして、取引先企業との関係の中で発揮された総合商社の機能を検証した。</p> <p>三菱商事は、安治川鉄工所に対して、(i) 資金供給、(ii) 交渉役、(iii) 経営介入行為という多面的な機能を果たしていた。(i) について、商事は、安治川の顕著な業績悪化を契機に積極的な経営介入へと方針転換を図り、前貸金の積み増しや無担保融通金の供給を行い資金面で重要な役割を担った。(ii) に関して、商事は、安治川に対する融資条件の再設定（利払いの回避と負債圧縮）に当事者以上にコミットし、同社の取引先である山口銀行との交渉役を演じた。(iii) について、商事は、大阪支店から出張ないし常駐という形で、複数の社員を安治川に派遣した。この行為は経理に関する専門的知識（情報）という経営資源の供給と経営監視の強化の2つの機能を併せ持っていたと考えられる。加えて、商事は、大阪支店を「ハブ店」とし、国内外の店舗間取引ネットワークを通じて、安治川製品の市場開拓も進めたのである。</p> <p>②の論文では、英国向け鮭鱒缶詰輸出を題材に、企業間関係という視角から、三菱商事（商事）ロンドン支店の機能を検討した。</p> <p>主な分析結果は次のとおり。鮭鱒缶詰の輸出取引では、英国市場が最大の消費地として重要な位置を占めた。それは、商事の在外拠点の中で、ロンドン支店が多面的な機能を期待されたことを意味した。商事と日魯の関係は、市場ベースの“arm's length”な性質を強くもっていたために、商事は様々な局面で日魯の利害を無視できなかった。その1つの現われがセール・チルニー（ST）商会の介在であり、これがロンドン支店に下請業者の監視とリスクの制御という機能をもたらすことになった。すなわち、ST商会の荷為</p>	

替手形取組に際して、商事は、銀行に対し保証状を差し入れて同社の信用を補完し、換言すれば、リスクを引き受けた。また、ロンドン支店は、ST 商会在が保管する船積書類のボリューム抑制や期間の短縮化、さらに残高の監視を通じて、リスクの制御に寄与していた。さらに、同支店は、最終的な資金源として本店のサポートを受けつつ、ST 商会の手形完済のために資金を供給することも求められたのである。

◎この他、東京大学経済学部図書館、三菱史料館、国立公文書館、北海道立文書館、神戸大学経済経営研究所で、総合商社の事業活動に関わる資料の調査を行った。

(b) 消費社会と小売企業に関する研究

本学藤本プロジェクト（デフレ研究）の一環として、バブル崩壊後における小売企業の戦略を研究し、以下の成果を発表した。

論文「デフレ経済下の東急ハンズ—出店戦略の転換と業態開発の模索—」

*注)プロジェクトの全体成果は出版物として 2014 年 3 月に日本経済評論社から刊行予定

【論文の概要】

東急ハンズは 1990 年代に入って以降、それまでの首都圏と近畿圏という出店条件を変えて、広島と札幌という地方都市への出店を実現させた。店づくりに際して、重視されたのは、“東京基準”に沿ったハンズらしさであった。この点は、新宿店にも共通している。したがって、東急ハンズは 1990 年代に、ハンズ業態の新規出店を通じて成長を図ったと言える。

2000 年以降、東急ハンズは新たな業態の開発を試みる。それは、ナチュラボ、アウトパーツ、ハンズセレクトおよびホームミルミィの失敗と、ハンズビーの“成功”という具合に明暗を分けた。ナチュラボは、同種のライバルとの激しい競争によって苦戦を強いられた。それに対して、ハンズビーの品揃えは、仕事と余暇を含む日常生活全般をカバーし、小型店でありながら、ハンズの原点である「ライフ・スタイル」の提案、言い換えれば、ハンズらしさを実現して“成功”へのきっかけを掴んだのである。

(2) テキストの執筆

本学の講義（「戦前期日本経営史」と「戦後日本経営史」）を 1 つのベースにして、埼玉大学の大石直樹准教授と共著で、下記のテキストを執筆した。

加藤健太・大石直樹『ケースに学ぶ日本の企業—ビジネス・ヒストリーへの招待—』有斐閣、2013 年 4 月刊行